

2020年度版 (Ver.1.0)

# ODC 口腔健診マニュアル

---

2020年4月

東京歯科大学名誉教授

山根 源之先生 監修

【事務局】

株式会社 ODC

〒105-0004 東京都港区新橋 2-19-2

リプロ新橋 和心システム内

E-mail partner@odc-co.jp

## はじめに

平素より弊社事業にご協力頂き、誠にありがとうございます。  
大変遅くなりましたが、今回皆さまに実施頂きます「口腔健診」の検査内容につきまして、「検査マニュアル」を策定いたしました。

健診実施時の参考にして頂ければ幸甚に存じます。

本マニュアルにつきましては、今後も皆様の意見を伺いながら、改訂を行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

# — 目 次 —

## 検査項目

---

※歯科で常に行っている検査につきましては、特にマニュアルは不要と考えました。

### 【スタンダード・コース】

1. う蝕、歯周病、咬合
2. 歯肉の腫脹、疼痛、出血、排膿、歯の動揺等の視診・触診
3. 咬合検査 [PAGE]
4. 口腔がん検診 . . . . . 4

### 【プレミアム・コース】

5. パノラマ X 線検査
6. 歯のブラッシング指導
7. 口臭検査 . . . . . 9
  - (1) 官能検査
  - (2) 口臭の原因究明
8. だ液検査 . . . . . 10
  - (1) 歯周病リスク検査
  - (2) う蝕リスク検査
9. 唾液分泌量検査 . . . . . 11
  - (1) ガムテスト
  - (2) 口腔水分計ムーカス

#### 4. 口腔がん検診

☆粘膜の色の変化と形の変化（凹凸や硬結）を診査します。

☆診査は次の順で見ると見落としが少ない。

- 1) 舌：舌側縁、舌背、舌下面→口底へ移動
  - 2) 口底(正中、左右)
  - 3) 歯肉：上下、頬（唇）舌→歯肉頬移行部を確認→頬粘膜へ移動
  - 4) 頬粘膜：左右→歯肉頬移行部を確認、双指診で粘膜内部の腫瘤を確認
  - 5) 口唇：上下、左右、口角部それぞれの粘膜と皮膚の表面と内部を確認
  - 6) 口蓋：硬口蓋、軟口蓋
  - 7) 顎顔面部全体：左右の掌で比較しながら
- リンパ節：顎下リンパ節、オトガイ下リンパ節、その他を双指診

#### 4. 口腔がん検診

##### 1) 舌の診査

- (1) 受診者に舌を前方に出させ、舌前方の中央部をガーゼを介して指でつかむ。受診者に力を抜かせ、軽く、しっかりつかむと痛くない。



- (2) 舌尖をつかんだ指を回転させて、舌の側縁から下方を明示する。同部は見落としやすい舌がんの好発部位。

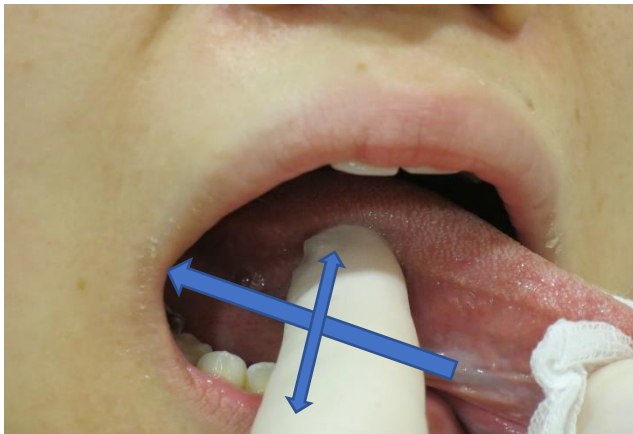


#### 4. 口腔がん検診

##### 1) 舌の診査

(3) 舌の側縁の前方から後方へ、さらに上下方向へ示指の先端腹部で触診。

表面の変化や粘膜下の硬結を指先で確認する。左右の舌側縁を診査する。



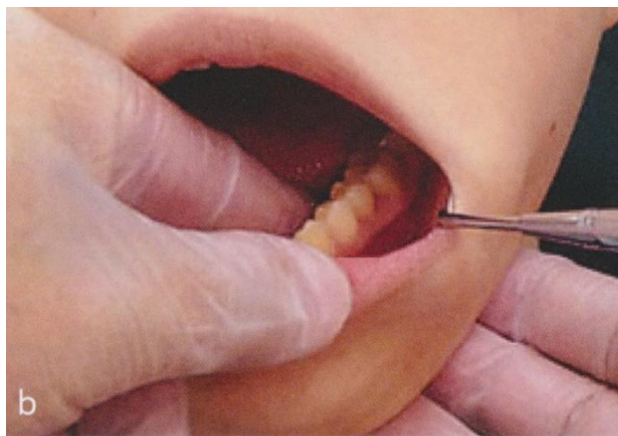
##### 2) 口底の診査

(1) 患者に舌を上方へ上げさせて舌下面をみる。引き続き口底をみる。

(2) 口底とオトガイ部皮膚の両側から双指診で確認する。

(3) 舌下腺・顎下腺の腺体および周囲リンパ節の腫脹を双指診で確認する。

双指診



#### 4. 口腔がん検診

##### 3) 歯肉の診査

上下、頬（唇）舌→歯肉頬移行部を確認→頬粘膜へ移動



##### 4) 頬粘膜の診査

(1) 口腔内から粘膜の表面を見る、触る

(2) 口腔内外からの双指診で組織内の硬結を触診



#### 4. 口腔がん検診

##### 5) 口唇の診査

- (1) 両手の拇指と示指で左右の口唇を挟み、外方に反転すると口唇粘膜が明視野になる。上下、左右、口角部それぞれの粘膜と皮膚を診査する。

##### 6) 口蓋（硬口蓋、軟口蓋）の診査

- (1) 体位と照明を工夫すれば直視が出来る。
- (2) 軟口蓋は嘔吐反射があるので触診は無理しない。

##### 7) 顎顔面部、唾液腺（耳下腺、顎下腺）、リンパ節

- (1) 顎顔面全体は左右の掌で比較しながら両側を触診する。
- (2) 耳下腺は皮膚側からの視診と触診
- (3) 顎下腺は口腔内外からの双指診
- (4) 舌下腺は口底の診査時に行う
- (5) 顎下リンパ節、頤下リンパ節を口腔内外からの双指診で診査する。



## 7.口臭検査

### 1) 官能検査

官能検査は被験者と検査者の間にお互いの顔が見えないように仕切りをする。

簡単なのはお互いの間にガーゼを広げ、被験者からガーゼに息を吹きかけてもらう。

または、写真のようにパネルに筒状のものを通す。被験者はそれをくわえて息を吹き込む。検査者は筒から出る被検者も呼気の匂いをかぐ。



(口臭診療の実際, 岸 光男, 岩医大歯誌 30 : 235-243, 2005 より引用)

### 2) 貴院設置の口臭測定器

口臭測定器が設置されている場合は、その機器で測定して下さい。その場合は結果と機器名を記載してください。

## 8.だ液検査

### 1) 歯周病リスク検査

(1) ペリオスクリーン (サンスター)

(2) 貴院設置の検査キットがある場合は、そのキットで検査して下さい。

その場合は結果と検査キット名を記載してください。

### 2) う蝕リスク検査

(1) CAT21 バフ (モリタ)

(2) 貴院設置の検査キットがある場合は、そのキットで検査して下さい。

その場合は結果と検査キット名を記載してください。

## 9. 唾液分泌量検査

### 1) ガムテスト（刺激時唾液分泌量測定）

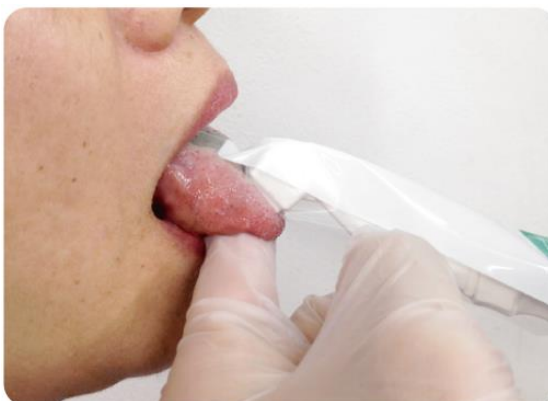


方法：10 分間、板ガムを噛み、全唾液をコップに出す。

結果：10ml 以下はドライマウスと判定する。

注意点：唾液量がすくない場合はメスシリンダーの中に一定量の水をたして測定すると誤差が少ない。もし検査中に唾液を飲んでしまったらその分を加味する。5 分間で検査を終える場合は、5ml 以下をドライマウスと判定するが、10 分間と比較して誤差が多いので、5ml 前後の時には後日 10 分間での再検査も必要である。

### 2) 口腔水分計ムーカス（安静時唾液分泌量測定）



方法：別添付の PDF「ムーカス使用法」を参照して下さい。